

* 自治体改善マネジメント研究会では、8月7日、福津市など「チーム経営研究会2020」の取組みを発表するオンラインセミナーの開催を予定している。



本連載は「自治体改善マネジメント研究会」のメンバーが執筆しています。同研究会は自治体で改善運動を推進してきた職員と行政経営デザイナー元吉由紀子が共同で設立。実践事例情報を収集、分析し、ナレッジ化して情報発信している。2017年にNPO法人化。ホームページ、Facebook「自治体改善の輪」を運営。

第41回

組織を変える 「チーム経営研究会」

個人学習からチーム学習へ

一人ひとりの職員は日々精一杯仕事をしている。それでも国や県、上司から次々に新しい業務がおりてきて、住民からの相談も増える。

況を1年かけて研究する「事例研究会」を開催してきた。しかし、研究を終えた職員が一人で組織を変えようとするのは困難である。そこで、2020年度からは、個別の自治体ごとに、人事、企画、

このままでは組織全体がうまく回らなくなってしまう。そんな不安を感じたことはないだろうか。自治体改善マネジメント研究会では、これまで自治体の経営改善に向け、所属する自治体の経営状

財政など管理部門の職員が「チーム」を形成して共に学び、実践につなげていく「チーム経営研究会」の取り組みを始めた。

福津市の「チーム経営研究会」

この呼び掛けに手を上げた自治体の一つが、福岡県福津市（人口約6・7万人）だ。福岡市と北九州市の中間に位置し、現在も人口が増加し続けているリビンクタウンである。17年3月、現職の市長を破り原崎智仁氏が市長に就任した。19年9月、新たな基本構想を策定し、「SDGs未来都市」に選定されるなど先進的な取り組みも果敢に始めている。

それにはまだ全庁的に足並みが揃っていないのではないかと、もつと縦割りを超えた連携をしていく必要があるとの問題意識から、人事、企画、財政など管理部門の係長に公募職員を加えた職員7人で「チーム経営研究会」を形成し、活動を開始することとなった。自治体改善マネジメント研究会からは、行政経営デザイナーの元吉由紀子がナビゲーター、福岡市で組織マネジメント業務に携わった経験のある私がコネクターとしてこの活動に伴走させていた。活動は、定時内・外織り交ぜて1回あたり約3時間のWEBミーティングを半年間、隔週1度のペースで継続し、その後研究レポートの作成にも取り組んだ。

チームで見出した 改善策の力

組織横断的なチームの対話では、「もやもやしたもの」が言語化され、一人では見えなかった「組織の全体像」が見えてくる。そこからチームで問題に気付くことができる、課題は「変えなければ」との確信になり、「みんなで力を合わせれば、変えられるかもしれない」という意欲の高まりになってきたようである。

21年1月、7人のメンバーは、福津市の組織の現状とめざす姿、マネジメントの課題と改善策を組織の段階に整理して報告書にとりまとめ、市長・副市長への報告会の後、幹部会議に参加してチームで提案した。縦割りの部署を超えた中堅職員による本質的な対話から導き出された組織改善策は、幹部職員の心に響き、即新年度幹部の中で主体的に動き出してくれていることがあると言う。

21年度、福津市では、管理部門の課長級職員がこのバトンを受け、改めて組織を見つめ直し、提案の実現に向けた取り組みを進めようとしている(*)。